

Y. S. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してからは、好きな海外の映画やTVドラマ等をたくさん見て、英語での日常会話に慣れるようにしていました。使えそうな表現などはノートに書き留めておき、よく見返していました。また、今までの留学体験記を何度も読み返し、どのような生活が待ち受けているのか想像し、心構えをしていました。大変だったのがビザ申請の準備でした。用意しないといけない書類が多く、すべての書類を英文で翻訳してもらわないといけなかったもので、日数がかかり留学までに間に合うかドキドキでした。私と同じようにロンドン大学ロイヤルホロウェイ校に4月から留学してきた生徒のおよそ半分の方がビザの関係で渡英が遅れていたため、ビザの申請は早くした方がいいと思いました。

② 語学研修期間

語学研修期間は月曜から金曜まで、毎日9時半から授業がありました。イギリスの文化、プレゼンテーションやセミナーディスカッションの仕方、そしてエッセイの書き方など、正規科目が始まってからも授業についていけるようみっちり勉強しました。この期間にエッセイを4つ書き、最後にはプレゼンテーションやディスカッションをし、それらが評価されました。授業数は多かったです。自分の勉強の時間も多く取れる時期だったので、もっと単語などを覚えておけばよかったと後になって後悔しました。また、生徒1人1人にチューターがついてくれ、1週間に一度自分のチューターと話す時間が三十分ほど設けられていました。普段の生活で困ったことを相談したり、エッセイを添削してもらったりと、とても役に立ちました。6月の最初には1週間ほどのスタディブレイクという休みがあったので、パリ旅行の計画を立てて皆で行きました。

③ 正規科目履修期間

語学研修期間の最後の方に正規科目の希望科目を聞かれ、決定したと知らされたのは9月の正規科目が始まる直前でした。正規科目が始まる前であれば、希望科目を変更することは可能だと思います。私は、**Background to Modern Britain for the Arts I・II** と **International Relations** という2つの科目を履修しました。**Background to Modern Britain for the Arts I・II** では、イギリスのクラスやジェンダー等の問題、そして多民族国家についての問題などについて学びました。この科目は留学生用なので、世界各国からの生徒と友達になることができ、とても楽しかったです。評価はエッセイ、セミナーディスカッション、そして試験で行われました。**International Relations** では、戦争や国連など、全世界の社会問題について学びました。リーディングの量がすごく多く、毎週授業についていくのがとても大変でした。セミナークラスのチューターの方が親切だったことだけが救いでした。評価は2つのエッセイで行われました。セミナークラスによれば、プレゼンテーションを課されるクラスもあったみたいです。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

私は何にも所属していませんでしたが、9月の正規科目が始まる頃に、色々なクラブ活動の紹介がされていました。

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

私は語学研修期間も正規科目履修期間も、Highfield Court という寮に住んでいました。今年度から Study Abroad with Academic English の生徒は Highfield Court と決められていたのか、私に選択肢はありませんでした。バスルームがすごく小さくて驚きましたが、自分専用のトイレとシャワールームがあったのでよかったです。キッチンも共同で、毎日クリーナーの方が掃除してくれていました。また、フラットメイトが皆大学院生で落ち着いたので、フラットが静かで過ごしやすかったです。大きなスーパーには徒歩 30 分くらいかかりましたが、小さなスーパーが徒歩 5 分くらいの所にあり、結構便利でした。

⑥ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は旅行ばかりしていました。夏・冬の両方に両親がイギリスに遊びに来たので、1週間ほどイギリスとフランスを旅行しました。また、友達とフランス、スペイン、スコットランド、ベルギー、チェコ、ウィーン、ハンガリーとたくさんの国々に行きました。夜な夜な誰かの部屋に集まって、すべて自分たちで計画を立ててチケットなどを手配したりして、時間はすごくかかりましたが予定を立てる時間も楽しかったです。また大晦日には、皆でロンドンにあるアパートを借りて、テムズ川沿いで行われるカウントダウンに行きました。すごく寒い中何時間も待たなければなりませんでした。一生忘れられない素敵な年越しになりました。このように、勉強とは程遠い生活を送っていましたが、しかし正規科目が始まると夜も眠れないくらい忙しい日々が続いたので、いいリフレッシュになりました。そして、また次の旅行を楽しみにして、「頑張ろう！」という気持ちになりました。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

リクナビやマイナビに登録し、気なる企業をブックマークするくらいしかしていませんでした。2月や3月くらいになると、日本にいる友達が会社説明会に参加し始めすごく焦りましたが、3月はエッセイや試験で忙しい時期なので、留学に集中することにしました。どうしても気になって、友達と就活の話はよくしていましたが……。しかし、本当に行きたい企業があるのであれば、その企業に事情を伝え、エントリーシートを送るべきだと思います。私は1社どうしても行きたい企業があったので問い合わせたのですが、3月に行われる会社説明会に参加できないのであれば選考には進めないと言われてしまいました。

II. 留学の感想

① 学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

色々な国に旅行したことも楽しかったですが、天気の良い日に芝生の上で友達と話したり、一緒に料理をつくったり、図書館で夜遅くまで励ましあって勉強したり……。そういうたわい無い日々がすごく思い出に残っています。また多くの友達を作ることができ、

日本に帰る前に開いたお別れ会では、パブに入りきらないほどの友達が会いに来てくれたことがすごく嬉しかったです。その時にもらったカードは一生の宝物です。もうなかなか会うことはできませんが、今でも facebook やメールで連絡を取り合い、近況報告などを行っています。

② 留学中で辛かったこと、最も苦労したこと

正規科目が始まり、リーディングの量が半端なく多かったのにもすごく苦労しましたが、1 番辛かったのは International Relations のセミナークラスに行くことでした。20 人位のクラスで、与えられた課題に対して皆でディスカッションするのですが、最初は自分の意見を言えないだけでなく、皆が何を話し合っているのかさえ分かりませんでした。日本で International Relations を専攻していたわけではないので、履修するべきではなかったと思い、チューターに何度も辞めたいと相談しました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

学内のお店でお酒が普通に売られていたり、学内にクラブやバーがあることには驚きました。曜日によれば、夜の 12 時を過ぎても学校内は賑やかでした。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、語学研修期間も正規科目履修期間も、生徒 1 人ひとりにチューターがついてくれたので、困ったことを相談したりエッセイを見てもらえたりしたところです。本当に親身になって相談に乗ってくれるので、逃げ出したいことがあってもすごく助けられました。また、ロンドンに電車で 40 分くらいで行けたので立地条件はよかったです。悪かった点は、何か問題があつてある施設に言いに行くと、たらい回しにあうことです。寮のレセプションで渡された部屋の鍵では部屋があかなかつたので言いに行くと、色々な部署に行かされました。イギリスに到着したばかりで疲れていたのが大変でした。後から聞いたのですが、他にも何人か渡された鍵で部屋があかなかつた人がいたそうです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは絶対に持っていくべきだと思います。学内にも二四時間開いているコンピューターセンターはありますが、エッセイ前になるとなかなか空いているパソコンが見つかりませんでした。あと、何処か行ってみたい国があるのであれば、その国のガイドブックを持っていくといいと思います。イギリスでも日本のガイドブックは買えますが、2 倍くらいの値段がしました。

③ 語学力の向上等、留学の成果

イギリスに留学する前は、1 年間留学するともっと英語がペラペラになると思っていましたが、ペラペラにはなりません。ただ、リスニング力・ライティング力・リーディング力は目に見えるほど向上し、海外の映画を見ても、聞いた英語をそのまま理解できるようになりました。また、イギリスで 11 月頃 TOEIC を受けてみたのですが、その時点で 150

点以上スコアがアップしていました。イギリスにいる頃よりも、日本に帰ってきてからのほうが、どれだけ語学力が向上したのかを実感できました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

これから留学をしようか迷っているのであれば、絶対に留学することをお勧めします。就職活動に遅れをとってしまったり、色々不安はあるかもしれませんが、そのようなこととは比べ物にならないくらい多くのことを体験することができました。長いと思っていた1年間もあっという間に過ぎてしまい、日本に帰る間際には皆で「帰りたくない〜!!!」と言っていました。それくらい本当に楽しく充実した1年間でした。この留学体験記を読んでいただいて、少しでも参考になれば嬉しいです。

IV. 写真



この写真は語学研修期間が終わった日に、先生方がティーパーティーを開いてくれ、その時に撮った写真です。前にいる10人が Study Abroad with Academic English の生徒で、後ろにいるのがお世話になった先生方です。

R. I. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学決定したときは、信じられない思いでいっぱい、勉強しなきゃ！と思う反面、あまり勉強が進みませんでした。それは具体的に何をどう勉強すれば、留学に役立つのかといったことが全く分からなかったからだと思います。これから留学したいと考えておられるなら、Listening と Speaking の力を伸ばすように学習することをおすすめします。文法は今まで勉強されてきたことで充分通じるので、この時期は英語に慣れることが大切だと思います。私はイギリスに着いたとき、話される英語がまったく分からず大変苦勞しました。もし行くまえに、もう少しでも会話力があれば、英語に馴染むのに必死だった最初の一カ月の期間を省略できたのではないかな、と思います。

② 語学研修期間

語学研修期間には、4技能を万遍なく学習することができました。どの勉強のときでも、英語を通じて学習するので、このときに英語の Listening 力をあげることができました。主に、イギリスの文化や社会を学ぶことを通じて、英語の学習が進められていました。授業内容としては、イギリスの社会問題について、discussion する課題が与えられたり、Essay を書く練習をするなど、充実した学習内容だったと思います。日本で学習していた、essay の書き方とは異なっていたので、最初は慣れるのにとっても大変でしたが、何回も回数を重ねたことで、自分の学習スタイルを確立できましたし、何冊もの本を参考にし、引用することで、reading と Writing の力を伸ばすことができました。

③ 正規科目履修期間

私が履修した科目は、国際関係のクラスと、International student のために開講される、イギリス社会を学ぶクラスでした。私は日本で英文学を専攻していたので、英文学に関連のある授業を履修したかったのですが、英語で学ぶ英文学というのは難しい、と Tutor に言われたこともあり、今まで留学されてきた方は、国際関係の授業を多く受講しており、比較的 Art などの授業よりも、学習しやすいと言われたので、国際関係の授業を履修することに決めました。大学1年生が受講する内容といっても、国際関係における知識と自身の英語力に不安があったので、もうひとつのクラスは、International students にむけた授業に決めました。

国際関係の授業では、これから国際関係の授業を学ぶ1年生のための授業だったので、theory について多く学びました。現在の世界情勢やこれまでの歴史を例にあげ、国際関係を学ぶうえでの考え方や視点を、theory を通じて学びました。

授業は週に2回あり、Lecture と discussion のクラスがありました。Lecture は Listening ができるかどうかなのですが、専門用語や知識がないと聞きとれないので、かなりの予習

が必要でした。discussion では、グループになって学習した内容や自分はどう思うかなどを話し合いました。

定期試験は、試験の時期がくるまでに帰国だったので、受ける必要がありませんでした。課題で、2000words の essay を 2 回提出しました。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

Society には特に参加していませんでした。友人内で遊びにでかけたり、語学研修で知り合った友人や寮が近い友人と親しくしていました。

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

大学の寮で暮らしていました。もともと住むところが決まっていたので、探す必要はありませんでした。キャンパス内にあるので、毎日勉強しやすい環境にありました。部屋にトイレとシャワーがあり、キッチンは 6 人でシェアをしていました。寮は様々な文化的背景をもった人が集まるので、大変面白く良い経験となりましたが、その一方で不快に思うことも多々ありました。

⑥ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は、旅行に出かけることが多かったです。語学研修で知り合った友人とヨーロッパを旅行したり、友人の家に遊びに出かけたり、大変充実した楽しい休暇でした。

長期休暇は、ほとんどの学生が実家に帰省し、キャンパスが静かになるので、旅行をして楽しむことができよかったですと思います。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

就職活動は、日本にいる友人と同じようにリクナビに登録して始めようとしていましたが、思ったよりも就職活動に時間がかかり、勉強ができなかったため、すぐにやめてしまいました。エントリーシートなどを郵送するのに時間がかかるため、スケジュールにばかり気をとられ、勉強のこととは違うことでストレスを感じていたため、就職活動を続けることは私には無理でした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

多くの友人に出逢えたことです。様々な価値観をもつ友人と話すことは、今までになかった経験であり、自分の世界が広がり、また世界を身近に感じるきっかけとなりました。

思い出は、たくさんありますが、やはり友人と楽しく過ごした時間が宝物です。色々な場所に出かけ、新しいものを吸収できる、素晴らしい機会に恵まれ大変充実した留学でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

勉強です。とくに、正規科目の授業は本当に毎週辛かったです。予習が大変でしたし、discussion では思うように話すことができなくて、たくさん勉強しても、うまくいかないということが毎週続いていたときは、自分の成長が感じられず、大変落ち込みました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

文化・習慣などは、とくに驚くことはなかったです。

ただ、Heathrow の空港に着いたとき、周囲の人すべてが黒人の人々で、馴染みのなかった私は大変驚きました。西欧の文化については、馴染みがあったので、特に驚くことはなかったですが、中東やアフリカの人々と、接する機会には、色々驚く経験はありました。文化だけではなく、価値観・考え方の違いで悩まされたことは多々ありましたが、とてもいい経験になったと思います。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

1年を通じて、大変充実したプログラムでした。学習内容もきちんと順序がふまれているし、サポート体制も万全なので、勉強に励みやすい環境でした。

ただ、語学研修から正規履修のレベルの差があまりに大きかったので、正規履修が始まったときは、本当に大変でした。語学学校が別だった訳ではないので、正規授業の履修目標に沿った授業を展開してほしかったです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコン・化粧品類・カメラ・ある程度の衣服・常用薬があれば、留学生活を楽しめると思います。

現地で調達することも楽しみのひとつだと思うので、本当に必須なもの以外は特にないと思います。ちなみに、ロンドンに日本のものを売ってる店があるので、食材も手に入りますし、大学には週に1度 Chinese market があるので、自炊で毎日日本食を食べていくことができます。

③ 語学力の向上等、留学の成果

語学力は大分向上しました。TOEIC でいえば、200点ほどあがりました。（これからまだまだ伸ばす予定です！）語学力はもちろんですが、何より人とのコミュニケーションをうまくはかることができるようになったと思います。留学でたくさん大変な思いもしましたが、今の自分の自信にもつながっており、すべての経験が宝物だと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学したい！という気持ちがあれば、その気持ちを大事にしてチャレンジを続けてほしいと思います。日本の大学にいたただけでは、経験できないことがたくさんあります。異なる生活に対して、不安を抱くこともあるかもしれません。ただ1年を通して、私がいえることは、苦しかったことは今やすべていい思い出になっているということです。苦い経験が無いとはいいませんが、何百万倍もの楽しいことがありました。少しでも留学したい気持ちがあるのなら、ぜひ留学することをおすすめします。人生を大きく変える素敵なことがたくさん待っていると思います。